



外来へビ類の 目撃情報を 集めています。

人間活動によってほかの地域から持ち込まれた生きものたちのことを「外来種」と言います。どの外来種も、もともと暮らしていた地域では、ごく普通の生きものであることを忘れてはいけません。

外来種被害予防三原則では、「入れない」「捨てない」「捕げない」としていますが、人の身勝手な行為が、時に取り返しのつかない大きな問題を引き起こすことがあります。

外来種の中には非常に大きな悪影響を及ぼすものもいて、そうした生きものが法律により「**特定外来生物**」に指定されています。「**特定外来生物**」は飼ったり、持ち運んだり、他の場所に放したりすることが禁じられています。

タイワンハブ、タイワンスズメは**特定外来生物**に指定されています。

ぼくたちのちがいが
わかるかな～？

編集・発行:



環境省 沖縄奄美自然環境事務所
Okinawa Prefectural Nature Conservation Office, Ministry of the Environment

デザイン: Natural Box株式会社

原 図: Megumi Yamashiro

2020年9月発行

タイワンハブ・ タイワンスジオは 特定外来生物です。

これらの外来ヘビは、やんばる三村(大宜味村・東村・国頭村)ではまだ分布していないことになっています。そのため、早期発見・初期防除がとても大切です。

有毒



【特定外来生物】

タイワンハブ

Protobothrops mucroquatus

中国南部、台湾原産。ハブ酒に用いるため輸入されたものが逃げるなどして、名護市などで急速に分布を広げている。ハブより一回り小さいが、気性が荒く攻撃的。うかつに近づくと矢のように飛びかかってくる。

80~130cm



【特定外来生物】

タイワンスジオ

Euphe laticincta friesi

台湾原産。うるま市や沖縄市などで分布を広げている。しっぽの両側の黒いスジが特徴的でこの名がついている。毒はないが、2mを超える大きなヘビとなり、ネズミや小鳥を好んで食べるため、もともとすんでいた生きものに深刻な影響をおよぼすと考えられている。

180~270cm

沖縄県では、外来ヘビ類であるタイワンハブ及びタイワンスジオが野生化し、分布域は拡大の一途をたどっています。沖縄県北部(やんばる)地域のうち、大宜味村、東村、国頭村の三村では多くの希少動物が生息しています。外来ヘビ類がひとたび定着すれば在来ヘビ類との競合のほか、ヤンバルクイナやオキナワトゲネズミなどの希少種にも多大な影響があると考えられ、早期発見と初期防除が極めて重要な状況にあります。みなさまからのやんばる三村における外来ヘビ類の目撃情報を収集しています。

よく似た在来ハブ類

やんばるに生息する在来のハブ・ヒメハブは有毒ですが、やんばる地域の生態系を構成する大事な一員です。人に危害がない場合は、そっと見守ってください。

有毒



130~240cm

ハブ

Protobothrops flavoviridis

体長2mにもなる大型のヘビ。分布域が広く個体数も多い。ネズミを食べるため人里近くにも生息する。夜行性で昼間見ることは少ない。

有毒



40~80cm

ヒメハブ

Oreophis akhaverensis

ハブの半分ほどの体長で長さのわりに胴が太い。カエルが大好物のため、水辺を好む。動きは鈍くじっとしていることが多い。ニープヤアー(沖縄方言名)。

うろこ模様 の ちがい



タイワンハブ



タイワンスジオ



ハブ



ヒメハブ



やんばる三村(大宜味村、東村、国頭村)で
 外来ヘビ類を見かけたら?

- ・むやみに近づくようなことはせず、ヘビから十分な(1.5m~2m)距離をとる。
- ・可能な限り観察し、種類を判別する。※ヘビを刺激しないよう十分注意してください。
- ・目撃情報はやんばる野生生物保護センターまでご連絡ください。

やんばる野生生物保護センター



0980-50-1025